

館報

庄内



庄内地区
令和3年3月1日現在人口

世帯数	7,061戸
男	7,374人
女	7,377人
合 計	14,751人

発行 庄内地区公民館
(ゆめひろば庄内)
電話 24-1811
FAX 24-1812

庄内地区の「○○」を知るシリーズ
旧国道19号線、善光寺街道筋を巡る

朗らかな陽気のもと
地区の探索を開始！

庄内地区の魅力を改めて見つける「〇〇を知る」シリーズ第2弾。今回は地区の北西側を回ります。

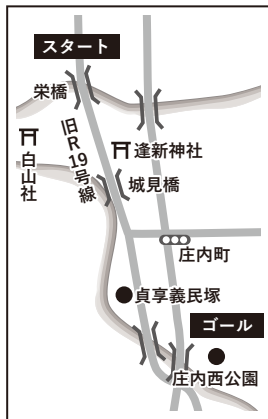
探索日は2月上旬で寒さが肌に沁みますが、日差しは暖かく、見上げた空は

つなぐこの道は、時代と共に県道であったり、国道19号であったり、そして元々は善光寺街道という歴史のある道です。

では、松本城を発ち、城下町を抜け、街道を進んでいく旅人（武者修行の侍、または俳人）になった気分
で、いざ出発！



薄川右岸から栄橋を望む



古くからの町を巡って…

米橋を渡ったすぐの場所、横断旗の備わった横断歩道に道祖神が祭られています。今も昔も行き交う人々を守っているのですね。と、



▲道祖神



▲道祖神

ここで庄内地区公民館の常連さんとはったり。「こんな所で行き会うなんて珍しいですね」と、にっこり声をかけて頂きました。

古くからの町だけあって
なまこ壁、隣同士が接し合
う家屋、時代を感じさせる
字体の店看板等があちこち
目に留まります。では、路
地裏はどうなっているの

▼昔からの街並み



か、道角の八百屋さんが曲がって奥へと行つてみましよう。

辺りからは工場の作業音

やラジオの音声が聞こえてきます。少し行くと、4つ並んだ石碑を見つめます。その中のひとつに文政10年（1827年頃）の記載がありました。ふと気になってこの頃の出来事を調べたところ、文政8年に松本藩内で赤蓑騒動あかみのさわどうという打ちこわし一揆が発生していたようです。そんな時期にこの石碑を彫った方は、一揆のことを知ってどういう気持ちだったのでしょうか？

もう少し路地裏を進むと、新家町町の白山社に到着。敷地内にある石碑の名前や年号を見ながら一休み。ちょうど散歩に来られた近所の方とにつきりごあいさつ。

休憩を終えてすぐの場所で新家町の旧町名由来を記した石碑を発見。大正14年の旧松本村合併の際に新家町として独立したとの記載があります。先程の白山社の中にも同年に彫られた石碑がありました。この年は新家町の皆さんにとって重要な年だったのですね。と、ここで「さっきお散歩にきたご近所の人に神社の由来とか聞けばよかった」と、

ちよつと後悔……

路地裏をぐるぐる回っていると、いつの間にか逢新神社の裏側に到着。入口にある南新町町会の旧町名由来碑を読んで、この町会が何故「南の新しい町」なのか謎が解けました。敷地内を見渡すと何と防火水槽が埋設されています。町を火災から守るためなのですが、実は神社が災害から町を守っているように感じますね。

逢新神社から東の逢初町会の方に足を向けてみます。鉄工所や染物工場等が道に連なり、少し南に進んでいくと庄内町の信号機にたどり着きました。ここは現時点での出川からの道路拡幅工事の境目です。

古い町並みが消えていくのか、新しく生まれ変わっているのか、皆さんは町の変化をどうお感じですか？



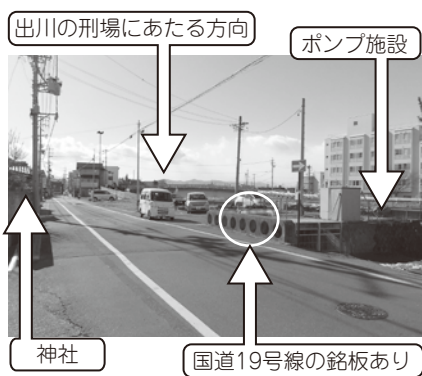
拡幅前後では空の広さが違いますね



町並みに残されている 忘れてはいけないこと

再度街道筋へ戻り、城見橋がある場所へ向かいます。昔はここから松本城が見えたのでそう名付けられたそうです。また、かつて松本から罪人が出川の刑場へ向かう時、この位置から刑場が見えてがっくりと首を垂れたことから、通称「がったら橋」とも呼ばれていますね。

さらに、ここは地区を流れる三番川と田川の合流点であり、バックウォーター現象を防ぐための仮設ポンプ施設が備えられていますし、道の少し奥に奥山半僧坊神社が奉られています。城見橋周辺は、歴史的にも防災の面でも、地区の重要なポイントなのです。



街道筋を進み、なだらかな斜面の先に豊田橋が見えてきました。橋の向こうは出川へと続いていきますが、ここで田川の右岸側へと曲がります。ほんの少し先の堤防の下に、貞享義民塚が安置されているからです。

貞享義民塚は、貞享3年（1686年）に松本藩で起きた貞享騒動と呼ばれる百姓一揆を起こした農民のうち、筑摩郡出身者がこの出川の刑場に連れて来られたことが由来になっています。

塚のある場所が刑場跡なのではなく、周辺の河川敷内一帯が、かつてそういう場所だったとか。なお、騒動の中心人物多田加助は、勢高（現在の丸の内中学校内）の刑場に連れて行かれました。磔の際、年貢軽減を訴えながら松本城を睨んだ結果、城が傾いたという伝説が語り継がれています。

凶作の上に重い年貢を課せられて一揆を決意した義民の方々。後世の私たちの問題のひとつが食品ロスだと知ったら、果たしてどう思われるのでしょうか？
豊田橋を渡り、出川町会

の入りに口に見えてきたのが一里塚（一里＝約3.9km）の跡。そこから田川を挟んだ反対側に庄内西公園と逢初川の仮設ポンプ施設があります。ここも地区の防災として重要なポイントのひとつです。庄内西公園は道路よりも下に整備されており、河川氾濫を想定した調整池としての機能が付与されています。



▲貞享義民塚



▼逢初川と田川の合流点

歴史は繰り返す？

さて、牛伏寺断層や大小の河川が存在するため災害に弱いとされる庄内地区。直近で大きい被害が生じた

のは、平成11年6月29日から30日にかけて集中豪雨による逢初川の氾濫で豊田町町会等が浸水した事例と、平成23年6月30日に起きた松本地震の2つ。

奇しくも同じ日だったことも含め、私たちは災害の記憶を忘れないようにしなければいけませんね。

伝統と進化、 2つの顔を持つ 庄内地区を再発見

今回の探索は、古き良きと新しさを同時に感じさせる所が、いかにも庄内地区らしいと感じる一日でした。紙面の都合上、回った場所全てを載せられず残念です。

最後は冠雪の美ヶ原を背景に、庄内公園ではしゃぎ回る保育園児の写真で終わりにしたいと思います。

今度は地区の北東側を回り、新しい〇〇を探していきます。お楽しみに。



コラム かつて会社勤めをしていた頃、

某中学校から「生徒の職場体験をさせてほしい」と依頼され、渋々、受けたことがあります。ところが実際に訪れた彼等の好奇心と学びたい意欲に溢れた質問に、我々社員が刺激を受け、共に学び合う良い機会になりました。彼等にとって我々は少し親や先生以外の意味ある他者としての人になったのではないかと思います。

以降、私は会社での研修や大学の授業で「教育」を行う際に、お互いの「知る。わかる。気づく」を増やし共に学び育つ場となる「共育」を大切にしています。人は皆同じではなく、皆違います。一人一人の自分らしく自立して生きたいという思いを認め合いたいのです。

昨年から公民館に関わるようになりました。公民館が、子どもや若者に大人が関わり共に学び合い育つような「社会教育の場」になることを願っています。